

「 今 、 栄 光 を 」

詩篇 第30篇 1節～6節
ヨハネによる福音書 第17章 1節～5節

説 教 岡村 恒牧師

「父よ、今み前にわたしを輝かせて下さい。」(5節)主イエスが十字架に磔(はりつけ)にされる前夜に祈られた言葉です。この夜、主イエスは弟子たちと過ぎ越しの祭りの食事をし、緊張感の中で別れの話がされました。主イエスは決別説教を語り終えて祈り始められました。他の福音書には《ゲッセマネの祈り》と呼ばれる短い祈りが記されています。ヨハネによる福音書だけが、《大祭司の祈り》を全部記しています。聖書に記された主イエスの祈りの中で、最も完全な形が伝えられている祈りです。

ユダヤ教では年に1度、大祭司と呼ばれる人が神殿の奥に入って祈りを捧げます。一番神に近い場所で捧げられるのが大祭司の祈りです。十字架の上で息を引き取られた時、この神殿の幕が裂けました。主イエスが、神と私たちを隔てる幕を取り除いてくださったのです。

主イエスは、天地が造られる前から、父なる神と一緒におられ、栄光を持っておられました。しかしその全てを手放して人間となり地上に来て下さいました。そして地上の旅を歩み、語り、奇跡をなし、これから最も悲惨な、みじめな死に方をして陰府にまで降られるです。その前夜に、「父よ、時がきました。…子の栄光をあらわして下さい。」(1節)と祈られました。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(3節)永遠の命とは何かを知れば、神の栄光を知ることになります。知ると言うのは単に知識の話ではありません。人間と人間がその心と魂で触れ合う知り方の話です。今月、トピ・キビマキ宣教師を大阪教会にお迎えして、若い人に英語でメッセージをしていただきました。事前の打ち合わせ無しでしたが、トピ先生のメッセージが今日の聖書の箇所でした。トピ先生は《知る》と言うことが、本当に深い交わりを得て主イエスと結びつくことだと丁寧に話されました。

主イエスは、いくつかの大事なことをこの祈りの中で言い切られています。「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。」(4節)と完了形で書いています。まだ十字

架に架かる前です。主イエスはいつでも何かをなさるときに、あいまいな仕方では歩まれません。神の救いの業は何があろうと微動だにしない、この確信に満ちて語り、行動されました。

加えて私たちはこのお方によって、神の救いの計画が本当に実現したことを知ります。主イエスは十字架の上で息を引き取る時、全てが終わった、成し遂げられた、そう言われました。主イエスは、この言葉を言い切るために地上に来られたお方です。主イエスが地上に来られる時、神の栄光をお捨てになりましたが、同時に、神にとってもそれは大なる喪失の出来事でした。私たちは御子の誕生を喜び祝いますが、クリスマスは神の悲しみの日でもあります。御子を手放してしまったからです。

この主イエスは、やがて再び来て下さいます。その時に起こることを、聖書は驚くべき仕方でも表しています。主イエスにつながる者は、主イエスの御元に引き上げられて、主イエスと同じ栄光の姿に変えられる、というのです。

時が来ました。私たちが主の招きに應えて、主イエスを救い主と信じて、神の栄光を受ける時です。神から永遠の命をいただいて生き始める時です。主イエスが、今この瞬間も、私たち1人1人の為にとりなし、神の元に迎え入れる準備をしておられると知って、神を褒め称える時です。やがて終わりの日、私たちはこの時の《完成》を目の当たりにします。今はまだ、私たちの想像を超えているのが神の栄光です。しかし、主イエスを救い主として信じる者は、もう既にその栄光を手にはしています。

やがて終わりの日、私たちは主イエスと共に、神の前に立ち、永遠とは、神の栄光とはどのようなことか味わい知ることになります。その日を楽しみにして、心からの喜びを持って迎えることができるように歩んで下さい。既に洗礼を受けた者は自分に神の栄光がもう与えられていることを知って、神の栄光を褒め称えて歩んで下さい。今、洗礼の準備をしている方は、ぜひ、「時が来た」、そう言われる主イエスの言葉を繰り返し聞き続けてください。あなたが神を信じ、イエス・キリストを信じて、永遠の命を得る時が来ています。

(記 説教要約奉仕者)